

平均台

著者・発行者
かぶや亭坊楽◎

『月刊いしい平均』増刊第12号

180

（小冊子『平均台』からの通しナンバー）

甲「この頃は、女の人も外で集ってビールなどを飲んでいることが多いねえ」

乙「そうよ、昔とは大違いさ。『女子会』って用語が定着してるもん」

甲「確かに。そんな女性が呑み会に参加するのを一発で表わした言葉があるな」

乙「知ってるさ。ジョイン（女飲）するだろ」

181

学生A「この夏も結構暑かったなあ。俺んちの庭に随分沢山の蝉が来て、大合唱を聞かされたよ」

学生B「それで、お前は油蝉やミンミンゼミなんかの声を聴きながら避暑気分を満喫かあ」

A「そうさ優雅なもんだったよ」

B「こちとらとは雲泥の差だな。俺が其の時分聴いてたのは、蒸暑い研究室での山田ゼミよ」

182

歌謡曲の大好きな夫婦が居まして、日頃の会話に歌詞の一部を当てて楽しむのが常です。その幾つかを紹介しましょう：

夫「書棚から英和辞典取ってくれないか」妻「今忙しいのよ。南国土佐を…」

妻「テレビの気象情報じゃ何て言ってた？」夫「ああーあ、長崎はあ…」

妻「コーヒー炒れるけど、どっちがいい。ホット？アイス？」夫「じゃあ、誰よりも君を…」

183

母親「もう起きなきゃ遅刻するわよ」

息子「えっ大変だ。普段歩いてる通学路、今日はバスに乗っていいい？」

母親「そうね、お金が勿体無いけど。まいいか、遅刻の沙汰も金次第だね」

184

用語評論家「政治家特に政権与党の人が『肅々と』を頻繁に使っていたのが、沖縄県知事の反発で引つ込めたと思つたら、『丁寧』それから『しつかり』が、答弁や説明の必修科目の如く登場したねえ」

同じく解説者「ああ。抑々言葉というものは、約束事なんだから、互いに共通の理解を生み出すように適切な使用を心掛けるべきだよ」

評論家「仰るとおり。『丁寧に』が『独りよがり』に変身したりして全く情けないよ」

解説者「株価用語に『小じつかり』がある。しつかり実行すると言いながら何もやらない手合いを見ると、せめて『小じつかり』くらいは頼むよと言いたいね」

185

防火対策班「火の用心」カチカチ。「火の用心」カチカチ。

班長「ご苦労さん、冷えるのう。この小屋で一休みしよう」班員A「寒さしんしんだから、そういう段取りなんですか、有難いつすねえ」

B「ほんとに、正に暖を取りましょう」

186

X「少子化時代だと言っても子供を保育園に入りたい人は

大勢居るんだ」

Y「そう。その受入れ体制が十分出来ていないのが大問題なんだね」

X「入園待ちの現状は、俄かに解消出来ないそうだ」

Y「親の気持ちを想像してご覧。全く遣り切れないよ」

X「草臥れ果てて、いい加減腐っちゃうよ。こりゃ公害だ。『待機汚染』だ」

187

婆さん「老々介護って言葉もすっかり市民権を得た今日この頃だねえ」

爺さん「そうだな、それにしても配偶者同士でも親子でも大変な苦労の連続だあ」

婆さん「自分たちで何とか捌けるうちは良いけれど、その範囲を超えると公の機関や民間の法人・団体などにお世話になるほか無いのかねえ？」

爺さん「うん。金も掛かるし手続きも面倒だとなりやあ立ち往生か」

婆さん「老々二人が、引つ繰り返って…オロオロかい、ごめん蒙りたいわ」

188

兄「無線航空機ドローンが有名になって、色々話題を提供してるなあ」

弟「軍事用もあり、民生用もあつて今後大型から小型まで発展するらしいね」

兄「蕎麦屋の出前がドローンで届くーな あんて事にや中々ならないだろうが、普及したら怖い思いもするぞ」

弟「そりゃそうだね。飛行物体で奴は、いつ頭に落下して来るか分んない」

兄「その時は、此方がお先にどろんを決め込むんだな」

